

<p>重点目標</p>	<p>ふるさと教育・キャリア教育を基盤とする学力向上</p>
<p>現 状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループや集団で学習を進めることが自然にできるようになった。 ・課題に対して、見通しをもって計画的に進めることを苦手としている。 ・読書習慣は、昼の読書タイムの成果として身に付きつつある。今後も本好きな子どもを増やしていきたい。 ・令和2年度実施の県学習状況調査では、現6年生において、4教科(国語科、社会科、算数科、理科)とも県平均を上回っている。また、現5年生は、3教科中(国語科、算数科、理科)、算数科は下回っているものの他教科では県平均を上回っている。 ・上記の学習状況調査の結果から、本校児童の学力は、概ね県平均と比較して上回っており、全体としてはよい傾向を示している。
<p>具体的な 目 標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習規律の徹底 2 基礎・基本の確実な定着 3 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり <p style="text-align: center;">アンケート平均目標値：児童90%、保護者80%</p>
<p>目標達成の ための方策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1-① 学習の約束の提示 <ul style="list-style-type: none"> ② 子どもの自己評価カードの活用(重点項目の設定) ③ 学校での学習とリンクした家庭学習の工夫(ノート展) 2-① 課題と振り返りが明確であるノートづくり <ul style="list-style-type: none"> ② 基礎・基本の定着に向けた支援の工夫 ③ 全員合格を目指したチャレンジテストの実施(国語・算数) ④ 一人一人が「分かる」「できる」と実感できるTTと専科の工夫 3-① 児童自身の学びが成立する課題の理解と、実感を伴った振り返りの場面の設定 <ul style="list-style-type: none"> ② 身に付けさせたい力を明確にした授業づくり ③ 本に親しむ読書指導の推進 ④ 地域人材を活用した、総合的な学習(講話、体験活動)の実施

重点目標	明るく、思いやりのある子どもの育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね落ち着いた行動が見られ、諸活動にも進んで取り組む。異学年交流の場では、互いに協力し合い、活動を高めようとする事ができる。 ・挨拶ができる子どもは増えてきている。子どもたちによるあいさつ運動などの施策で学校文化として定着させたい。 ・休み時間には、男女を問わず、外で遊び、元気に他の学年の子どもたちとも交流している。 ・学級の係活動や委員会活動の役割を十分に果たし、学校行事ではそれぞれの学年に応じた役割に前向きに取り組む。 ・友達同士で助け合い、励まし合う様子が見られる反面、SNSや本人のいないところで、配慮の足りない言動が見られ、トラブルの原因となる場面も見られる。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 互いに認め合い心通う学級づくり 2 健康安全教育の推進 3 積極的な児童の見取りにつなげる教師間での情報交換の活性化 <p style="text-align: right;">アンケート平均目標値：児童90%、保護者80%</p>
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1-① 挨拶の励行と基本的生活習慣の確立 <ol style="list-style-type: none"> ② 学級活動や道徳科、生活科・総合的な学習の時間等での学び合いを通した「居場所づくり」、「絆作り」 ③ 受容的態度と共感的理解に基づく生徒指導の徹底 ④ アンケートや面談、観察からのいじめの早期発見・早期対応 ⑤ 実態に即した道徳科の重点項目（思いやり、規則の尊重）の設定 2-① 健康な体づくりの推進 <ol style="list-style-type: none"> ② 安全・安心な校内外の体制づくりの推進 ③ 災害に備えた知識と態度の育成 3-① 共通理解に基づく生徒指導の実施 <ol style="list-style-type: none"> ② 情報共有システムの整備

P
計
画

重点目標	開かれた学校づくりの推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、PTA授業参観2回実施できたが、祖父母参観を兼ねて地域の方も含めたフリー参観は中止した。 ・東湖八坂神社の統人行事や総合的な学習、ミシンの先生や読み聞かせ、昔語りなどで地域人材を活用することができている。 ・キャリア教育で身に付けさせたい力の習得の実感の手立てや学校や地域で学んだ成果の発信力が課題である。 ・令和2年度は活動が縮小されたが、地域と学校は協働的な活動の推進に努めている。学校報・HP等で取組を発信し、活動も認知されつつある。今後も地域・保護者のCSへの周知を継続していきたい。
具体的な 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭・地域が一緒になって子どもを育てる意識の高揚 2 地域に学び地域のよさを発信するキャリア教育の充実 3 参加し協働することによるCSの理解の深化 <p style="text-align: center;">アンケート平均目標値：児童90%、保護者80% 保護者自己評価70%</p>
目標達成の ための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染予防のため、活動が限られるが、対策を施した上で、保護者が参加しやすい形の取組を進める。 2 各教科・領域で地域の施設、素材や人材を活用した学習指導を展開する。 3 推進委員会の3部会やPTA専門部と連携し、事業を進める。また、PTA、CSそれぞれの活動に相互協力を促す。